



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 9 月 4 日 (水)

発行 館長 加藤 智 一

夏のドライブと虫

みなさんは、高速道路走行中、一般道路を走ると違って、やけにビタビタとフロントガラスに虫が当たってくるなど、イライラされている方も多いのではないのでしょうか。早速、AI にそのあたり聞いてみました。すると、「一般道より高速道路を走った後の方が、たくさん虫の痕が付く理由は、スピードをあげると空気が流れが早くなり、車体前面に虫が勢いよく当たってしまうためです。」と答えてよこしました。なんと一般的な答え。それだけではないと思うのですが。例えば、高速道路はどちらかと言えば人里離れた場所にあるので、虫密度が高いとか、高速道路は自動車専用道で、一段高いところにできているから、虫の飛行圏あるいは生活圏を侵害している可能性があるのではないかと、そういう検討や研究は関係者の中でされていないものなのでしょうか。研究テーマとしても面白いと思うのですが。

ところで、付いてしまった虫の汚れをみなさんはどうしているのでしょうか。直ちにふき取る？ほったらかして自然に落ちるのを待つ？虫汚れは、時間が経てば乾燥して固くなってしまい、こびりついて落ちにくくなりますし、虫の死骸は酸性で、塗装に浸み込んでシミ痕を作る可能性があるため、できるだけ早めに落とす方が良く、専門家の方はおっしゃっております。

さて、虫に絡んだ問題として、もう一つ気になることは、窓を開けているとたまに侵入してくるアブやハエ、蜂などのたぐいです。どうすれば速やかにお引き取りいただけるのか、毎回悩むところです。窓を開けて、うちわなどであおいで、空気の流れを作ると、自然に出て行ってくれるらしいです。是非実践してみてください。その前に車に一本、うちわを常備しておかなくてははいけません。

ジャパンディスプレイ (JDI) が開発した タッチパネルがすごい

8月27日(火)日刊工業新聞より。植物やプラスチック、大理石など、さまざまな素材をタッチパネルにすることができる独自技術。開発した技術は「ZINNSIA(ジンシア)」と言います。JDI 独自のディスプレイ技術と、センサー技術を応用して、フレキ

シブルプリント回路基板(FDC)に回路を印刷したもので、スマートフォンのタッチパネルと同じ静電容量方式で動作します。

基本的には、どんな絶縁体素材にも、裏に貼るだけで全般的に使用できます。木材なら厚さ 10cm まで存在検出。厚さ 5cm まで、座標検出ができます。

例えば、観葉植物の葉の裏にセンサーを貼り付けて、葉に触るとセンサーが検知して、音声が行くとか。木や大理石とかを自由にスイッチとして、デザインできるということです。



街中化石発見!!

水底に積もった生物の死骸などで石灰岩ができ、それがマグマの熱で変成すると大理石になります。大理石は、建物の柱や床材に使われることがあります。生物の死骸などからできた岩なので、化石も含まれるわけです。街中の駅や役所、公共施設など大理石が使われている場所で、化石を見つけることができます。大理石をよく見ると、白、グレー、ベージュ、赤の4系統の色に分けられます。白だと、石灰岩が高温で変成しており、死骸は跡形もなくなって化石はほとんどありません。ベージュは熱を強く受けておらず、よく見わかります。グレーや赤は高温の熱を受けていないケースがあり、ベージュほどではありませんが見つかるそうです。

